

学長メッセージ

新しい日常と、 その先の社会へ

獨協大学学長 山路朝彦

(やまじ・あさひこ)

1953年生まれ。81年東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程ゲルマン系言語専攻ドイツ語修了。86年獨協大学外国語学部専任講師、90年外国語学部助教授、2001年外国語学部教授。

本学における役職歴は、1994～96年外国語学部教務主任、97～2001年学長室委員、03～07年学生部長兼敬和館長、08～12年教務部長、12～19年副学長兼総合企画部長および獨協学園理事。20年4月1日より学長に就任。



昨年度は、大学のみならず、世界中が新型コロナウイルス感染症への対応に明け暮れ、今年度も先行きは不透明なままのスタートとなりました。

毎日の生活や世の中の常識が変化していくのを目の当たりにして、皆さんも不安や混乱が続いているかもしれません。

ここでは、新しい日常とその先の社会に進む皆さんにメッセージを送りたいと思います。

コロナ禍における大学

今年の3月に送り出した卒業生を含め、2020年度はほとんどの学生が大学のキャンパスに通うことなく1年を過ごし、また、友人たちや先生方と直接会う機会すら制限されることになりました。大学としてこれらの対応を取らざるを得ない状況にあったことは、今でも残念でなりません。

獨協大学は「学問を通じての人間形成の場」であり、言うまでもなく教育と研究の場です。ここでは「自由な出会いと交流」が保障されなければなりません。しかし、コロナ禍においては、その前提となる「安全で安心な環境」

を確保することが困難になってしまいました。生命や健康のことを最重要課題と考えた結果、1年間に及ぶ入構制限という苦渋の決断をした事情をご理解いただきたいと思います。

昨年度は、日本においてのみならず、世界中の大学が危機にさらされ、社会は活動の停滞を迫られました。

しかし、獨協大学の皆さんは、遠隔授業というこれまで経験のなかった教授方法によって、苦労しながらも学びを続けてきました。皆さんの「学びを止めない」という努力と成果は誇るべきものであります。この時代に経験していることを胸に、堂々と社会に乗り出す準備を獨協大学で続けて

ください。たとえ、大学生活が通常と異なるものになるとしても、獨協大学の「教育を止めない」という、皆さんを支援する姿勢は今後とも変わりません。

建学理念

「大学は学問を通じての
人間形成の場である」

獨協大学初代学長の天野貞祐先生が掲げた「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学理念は、大学は単に学問を教授する場ではなく、教える者と学ぶ者が一体となって人間形成という営為を成し遂げる場であるということを示しています。本学は一昨年で創立55周年を迎えましたが、これまでこの理念を揺るぎなく掲げ、実践してきました。

緑豊かな獨協大学のキャンパス。そこから離れて学ぶ時間が多かったとしても、人間性を高め、それぞれが活躍する場で存分に活かせる能力を得られるはずです。

これからの社会へ

今、私たちが目指すべき社会は、オープンでいわゆる「開かれた社会」であり、少なくとも皆さんの中でそうした社会への関心を高め、活発な議論を起こすことが必要だと考えています。また、目先の利益にとらわれず、公共的意識の高い社会へと転換を試みることが求められています。

開かれた社会、自由で平等で、差別や格差のない、多様性に富んだ世界は、皆さんの理想でもあるはずです。また、放射能に脅かされ、気候変動による幾多の災害に襲われるなど、危機的状況を経験している日本であればこそ皆さんの環境意識も高まっているはずです。

若い時期に世界的危機を日々の生活の中で経験した皆さんは、上の世代と同じ価値観をもちながら今までは異なった方法で、これまでとは異なる社会を目指してくれるものと期待しています。

家族や友人とお互いの無事を確認し合い、将来の不安と隣り

合わせに過ごした皆さんが目指すその社会は、きつと思いやりにあふれているはずです。これからの世界を創り出すのは皆さんです。そのためにも皆さんは、獨協大学で、ゼミの仲間のもとより、講義で初めて出会う人とも協働して、考え、話し合い、相手を理解し、自分たちの思考を曖昧なものから形あるものへと高めていく力を養う必要があります。

危機的状況の中にあっても、ネガティブな発想だけに流されず、日常の生活を「端正に」守り続け、学び続けることで、少しずつ進んでいくことの重要さを学んでいるはずです。

就職活動では、たびたび自分について語ることを求められますが「自らを客観的に見る力」、「自律的に行動する力」は、コロナ禍の試練において既に養われているのかもしれない。

新たな社会を創造する皆さんには、卒業後に発揮できる様々な能力を大学生活の中で身につけてほしいと願っています。

皆さんは、今後も、幾多の課題に直面するかもしれません。その

ときに対応できる「技能と感性」、特に人の悲しみに共感できる「想像力」と「感受性」をさらに大切に育てながら、学業に、学生生活に臨んでください。世界の動きとともに常に足もとにも目を向け、大学生活のみならず、その先の人生を自ら積極的に設計し、逞しく生き抜く力を養ってください。将来、どのような境遇にあっても夢や希望を持ち続けることで、一人ひとりにいずれ訪れる大いなる幸福を確実に掴み取ることができるようです。

皆さんの大学生活が、より豊かなものとなるように祈念して2021年度の学長メッセージといたします。

